



自由
いしくしやう
第33回

「忘れない」の1日。

東日本大震災から15年目を迎えた3月11日。町内では、犠牲者に対する追悼や慰霊の行事が各地域で行われました。多くの人たちがそれぞれの思いや願いを抱き過ごした「忘れない」の1日。



大槌町キッズコーラスあぐどまめによる献奏



阿部夢羽さん(大槌高校2年)

東日本大震災津波追悼式

3月11日(水)、大槌町東日本大震災津波追悼式がおしゃっちで行われました。式典では、地震発生時刻の午後2時46分に町内に鳴り響いたサイレンとともに、東日本大震災津波で犠牲になられた人たちに黙とうが捧げられました。大槌高校代表で追悼の言葉を述べた阿部夢羽さんは、「大切な人に『ありがと』や『またね』と言える時間を当たり前だと思っはいけない。だからこそ、私は大切な人にはきちんと思いを伝えられる人でありたい」と思いをつづりました。

大槌町鎮魂の森

犠牲になられた人たちに慰霊・追悼し、震災で得た教訓を将来へ伝える場として、令和7年6月に大槌町鎮魂の森が完成しました。愛称の「あえーる」には、はるかかなたへ逝ってしまった人たちに「会える」場所、町の未来へ「エール」を送る場所として、たくさんの人たちが集える場



になってほしいという願いが込められています。

今年完成して初めて迎える3月11日。献花に訪れた人たちは、芳名碑の前で、静かに手を合わせました。

「あえーる」をやさしく灯す 3・11集いゝ灯火ゝ

大槌町NPO・ボランティア団体連絡協議会による「3・11集いゝ灯火ゝ」が行われました。平成26年から続くこの催しは、灯ろうにあかりを灯し、鎮魂と復興への祈りを捧げるものです。日が沈んだあとの「あえーる」は、やさしい灯火に包まれました。



感謝の思いを胸に 新たな門出

追悼式と同時刻、安渡公民館で開催された「3・11楯音メモリアルコンサート2026」。その中に、今年から新たな門出を迎えるヴァイオリン奏者の姿がありました。



3.11 楯音メモリアルコンサート 2026

澤館優里佳さん15歳。ヴァイオリンに出会ったのは4歳のころ。町内の交流施設で行われていた弦楽器教室がきっかけでした。提供したのは、今年3月で支援の区切りを迎えた一般社団法人エル・システムジャパン。

震災直後から弦楽器教室の開催をはじめとした楽器の貸与・寄贈やレッスン講師の派遣など、子どもたちが音楽に触れ合える環境を与えてくれました。



エル・システムジャパンによる弦楽器教室

澤館さんは、「当時は遊ぶ場所も少なく、音楽を通じて夢中になれる居場所を作ってくれて嬉しかった」と振り返りました。わずか4歳でヴァイオリンを始め、最初は音を出す



ことさえ一苦労だったそうです。しかし、みんなで楽しくレッスンに励む中で、次第にソロ演奏の機会も増えていきました。澤館さんは、「自分の演奏で個性を表現することに魅力を感じるようになって、誰かに聴いてもらえる喜びが芽生えてきた」と心境の変化を語っています。



練習に励む澤館さん

平成28年から5年間、おおつち子どもオーケストラで弦楽器講師を務めた櫻井うららさんは、「優里佳さんは、どんな環境でも前に進む強さを持っている」と明かしました。



当時5歳の澤館さんと櫻井講師

常に「うまくならない」「高みを目指したい」と願いながらレッスンを重ねてきた澤館さん。新たな舞台への挑戦を決意し、4月から県外の高校に進学しています。「送り出してくれた家族や友達、これまで応援してくれた皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。いつかこの町でコンサートを開催し、レベルアップした演奏を聴いてもらいたい」とメッセージを残しました。